

講義科目名称： 教育方法・技術論(P)

授業コード： 52206900 52206910

英文科目名称： Theory of Educational Method & Technigue

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
辰口 和保、山田 綾			
開講曜限	授業形態		
木1、2	講義		
添付ファイル			

科目の概要・目的	<p>今日求められる授業のあり方を、授業の現状や自分自身の経験などをもとに考え、子どもたち全員にとって学びがいのある授業づくりの方法・技術を身につける。それをもとにして授業指導案を構想する。(山田担当)</p> <p>また、授業におけるメディア利用とプレゼンテーションを取り上げ、情報技術を利用した教育の方法について学び、実際に教育コンテンツを作成することで教育に必要な情報技術を修得する。また、教育と著作権の関係について、およびe-Learningの実効性を高めるための「インストラクショナルデザイン」についても取り上げる。(辰口担当)</p>
学習到達目標	<p>(山田担当) 今日の授業づくりの課題を理解する。 子どもたち全員にとって学びがいのある授業づくりの方法・技術を身につける。 (辰口担当) 情報技術を用いた授業づくりと資料作成の方法を身につける。 授業で利用されるICT機器の取り扱い方を身につける。 遠隔授業を含めたICT機器を活用した授業の方法を身につける。 学校教育における著作権の取り扱いについて理解する。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 授業内で「ディスカッションとプレゼンテーションを通して学生それぞれが授業を構想」することで取り入れている。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 「構想した授業で利用する教育コンテンツを作成」するうえでICT 技術を利用するとともに、授業の上でもMicrosoft Teamsなどのツールを使い、双方向の授業を実践する。</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点および提出課題 【割合】 平常点40%、提出課題 60%</p>
教科書・テキスト	適宜、配布資料あり
参考書	<p>文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」東洋館出版2018年 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説総則編」東洋館出版2019年 「ICT教育環境整備ハンドブック2023」一般社団法人日本教育情報化振興会編著2022年 子安潤編『教科と総合の教育方法・技術』学文社、2019年</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業の復習は毎回必ず行い、最終レポート・課題に反映させること
履修上の留意事項	OAENS利用者登録を行っていること。（「情報処理」を履修していることが望ましい。）
オフィスアワー	<p>山田：金曜日12:00~13:00 辰口：水曜日13:00~14:30</p>
課題に対するフィードバックの方法	対面授業の中で、または、メールやMicrosoft Teams を介して
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション【辰口・山田】 授業概要の説明を行う。自分の受けてきた授業の経験を振り返り、授業づくりへの課題意識を持つ 【事前学修】自分の受けてきた授業の経験で印象に残っていることをまとめる。 【事後学修】本科目での自分なりの目標をまとめる。</p> <p>第2回 学習指導案とは何か【山田】 授業という営みについて、学習指導案の内容と構成について学ぶ 【事前学修】学習指導案の作り方について各自調べてくる。以前に作成した学習指導案を持参する。 【事後学修】これまで作成した指導案を振り返る。</p> <p>第3回 教科内容研究をどのように行うか【山田】 各教科や総合的な学習の時間などの学習指導要領の目標・内容・各学年の内容について理解する</p>

	<p>とともに、学術的に教科内容を研究する視点について学ぶ 【事前学修】 指導案を作成する教科の題材あるいはテーマを決めて、論争点を調べてくる。 【事後学修】 教科内容論に関する本やテーマに関わる本を検索し、読んでみる。</p>
第4回	<p>教材研究をどのように行うか【山田】 教科書の教材や探した教材と学習指導要領との対応について調べるとともに、教材研究の方法について学ぶ 【事前学修】 指導案を作成する教科・学年・教材について考えておく。 【事後学修】 自分の指導案における教材観を考える。</p>
第5回	<p>教材解釈をどのように行うか【山田】 子ども理解の視点について学び、ICT利用も含めた、子どもたちの実態に合わせて授業づくりを行う方法について学ぶ 【事前学修】 教育実習等で出会った「学びにくさ」を抱えた子どもへの支援について考えておく。 【事後学修】 自分の指導案における児童観と指導観を考える。</p>
第6回	<p>発問づくりをどのように行うか【山田】 授業における発問づくりや問いづくりの視点について学ぶ 【事前学修】 自分の指導案の展開にあわせた発問や問いを考えておく。 【事後学修】 講義で検討した視点にもとづいて指導案の発問/問いを考えなおす。</p>
第7回	<p>学習形態とコミュニケーション過程の構想【山田】 授業を認識過程と集団過程からとらえたうえで、「みんなでわかる」授業にするための学習形態とコミュニケーション過程の構想について学ぶ 【事前学修】 自分の指導案での学習形態の転換と、そこで想定されるコミュニケーションについて考えておく。 【事後学修】 学習形態とコミュニケーションの構想から応答予想を考える。</p>
第8回	<p>単元・授業における学習評価【山田】 授業や単元における指導的評価活動や学習評価のあり方を学ぶ 【事前学修】 自分の指導案での「振り返り」や「評価」の観点について考えておく。 【事後学修】 授業や単元をとらえて育てたい「価値」について考える。</p>
第9回	<p>指導案発表会【山田】 各自作成した指導案を持ち寄り、発表会を行う 【事前学修】 これまでの授業内容を活かした指導案を用意する。 【事後学修】 他者の意見をふまえて指導案をより良くする。</p>
第10回	<p>教育における視聴覚メディア&コンピューターの利用【辰口】 教育における視聴覚メディア利用の歴史的な動向とGIGAスクールやプログラミング教育を含めた現代のICT利用の状況について 【事前学修】 GIGAスクールやプログラミング教育について文部科学省ホームページなどで調べておく。 【事後学修】 ICTの教育利用の広がりについて授業資料をもとに復習する。</p>
第11回	<p>授業のためのデジタルコンテンツとその作成技術【辰口】 PowerPointによるスライド作成を基礎にした、授業資料としてのデジタルコンテンツ作成技術について 【事前学修】 PowerPointの取り扱いについて確認しておく。 【事後学修】 コンテンツ作成技術の課題への生かし方について考察する。</p>
第12回	<p>遠隔授業とICT技術【辰口】 Microsoft TeamsおよびZoomを中心とした遠隔授業で取り扱われるICT技術について 【事前学修】 自分の取り扱える遠隔授業ツールを確認しておく。 【事後学修】 ICT技術の実際の授業での適用について考察する。</p>
第13回	<p>著作権についてー学校教育と著作権【辰口】 学校教育における著作権の取り扱いとICTの教育への導入によるその変化について 【事前学修】 文化庁ホームページで著作権と著作権法について調べておく。 【事後学修】 教育における著作権法の例外とICT技術に関係する著作権について再確認する。課題に関して著作権法上の問題点について考察し、必要な解決手段をとる。</p>
第14回	<p>e-Learningと教授システム学ー学習システムとインストラクショナルデザイン【辰口】 効率的な「学習」のしくみとは 【事前学修】 「授業」を構築するさまざまな方法について確認しておく。 【事後学修】 「授業」へのインストラクショナルデザイン的な方法の自分なりの生かし方を考察する。インストラクショナルデザイン的な方法を課題に取り入れることを試みる。</p>
第15回	<p>全体のまとめ【辰口・山田】 授業全体の振り返りとまとめ・課題作成 【事前学修】 授業全体をまとめておく。 【事後学修】 授業で学んだことを振り返りつつ課題の完成を目指す</p>

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 51206150

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	4	4 (通年)	選択
担当教員			
永井 正幸 他			
開講曜限	授業形態		
	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p> <p>■3-1 獲得した知識・技能を活かして、自らの学びを常に省察し、課題を見つけて改善し続けることができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	3年次までの学修によって得られた子どもに関する基本的理解を元に、各自の問題意識にもとづき研究を行い、論文としてまとめる。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の問題意識に基づいてテーマを設定し、資料・文献を多面的に考察することができる。 2. 自身の研究テーマに適切な研究方法を選択できる。 3. 論拠に基づいた論理的な文章を執筆できるようになる。 4. 研究の成果を論文としてまとめ、発表することができるようになる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>ゼミナール形式にて行う。</p> <p>毎授業、発表やディスカッションを行いながら論文を完成させていく。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>論文、発表</p> <p>【割合】</p> <p>論文：80%（うち、主査：70%、副査：30%）</p> <p>発表：20%</p>
教科書・テキスト	各指導教員より、研究テーマに応じたものを、適宜、指示する
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども教育学部初年次教育担当「レポート/卒論の手引き」 ・研究テーマに関して、必要に応じて文献等を検索する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	各指導教員の指導を参考にしながら、随時、研究課題を整理する。
履修上の留意事項	履修上の基本的事項として以下の2点を原則とする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 3年次「健康子ども学専門ゼミナール」を履修し、単位取得していること ② 3年次までの卒業・資格単位を取得していること
オフィスアワー	各指導教員に確認すること
課題に対するフィードバックの方法	各ゼミにてフィードバックを行う
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・金川 小学校教諭 ・桐山 小学校教諭/中学校・高等学校各非常勤講師 ・黒澤 介護職員 ・西堂 特別支援学校教諭 ・佐藤(琢) 高等学校教諭 ・高木 臨床発達心理士 ・徳留 保育士 ・戸松 幼稚園教諭/保育士 ・服部 小学校教諭 ・林 幼稚園教諭/保育士

	<ul style="list-style-type: none"> ・藤丸 小学校教諭/中学校教諭 ・村田 健康運動指導士/スポーツ指導員 ・山口 小学校教諭/中学校教諭
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 研究テーマの設定 ゼミ指導教員のもとで個別に卒業研究を行う。</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第2回 研究計画の策定 指導教員と相談して研究計画を立てる。</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第3回 研究目的の検討</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第4回 研究方法の検討</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第5回 研究方法の検討</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第6回 先行研究の検討</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第7回 先行研究の検討</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第8回 先行研究の検討</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第9回 先行研究の検討</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第10回 各自のテーマに基づいた研究活動</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第11回 各自のテーマに基づいた研究活動</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第12回 各自のテーマに基づいた研究活動</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第13回 各自のテーマに基づいた研究活動</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第14回 各自のテーマに基づいた研究活動</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第15回 各自のテーマに基づいた研究活動</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第16回 各自のテーマに基づいた研究活動</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p> <p>第17回 各自のテーマに基づいた研究活動</p> <p>【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う</p>

第18回	【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動
第19回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動
第20回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動
第21回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動
第22回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動
第23回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動
第24回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動
第25回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動
第26回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動、執筆した論文の推敲及び発表抄録の作成
第27回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動、執筆した論文の推敲及び発表抄録の作成
第28回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動、執筆した論文の推敲及び発表抄録の作成
第29回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動、卒業研究発表の準備
第30回	【事前学修】ゼミ指導教員の指示に従う 【事後学修】ゼミ指導教員の指示に従う 各自のテーマに基づいた研究活動、卒業研究発表の準備

講義科目名称： 社会福祉行政論

授業コード： 52204700

英文科目名称： Social Welfarism

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
黒澤 祐介			
開講曜限	授業形態		
月3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■1-3 社会的養護に関する基本的な内容や子ども家庭をめぐる諸問題の歴史の変遷と各種法制度などについての専門的知識を有している</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	---

科目の概要・目的	社会福祉の行政の実際と実施体制について解説する。福祉行政の法制度と財源について、国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割などから概観し、現代の社会福祉行政の課題を考える。
----------	---

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉行政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割）について理解する。 ・社会福祉の財源（国・地方・保険料等）について理解し、その課題を知る。 ・福祉行政の組織及び団体、専門職の役割について理解する。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>テキストを精読し、グループディスカッションや発表を適宜行い、講義内容の理解を深めていく</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>学内システム等を利用し、教員と学生、また学生同士が意見を交流できるようにする</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業内でのレポート課題 定期試験（レポート）</p> <p>【割合】</p> <p>授業内でのレポート課題（50%） 定期試験（レポート）（50%）</p>
---------	---

教科書・テキスト	山口道昭（2016）『福祉行政の基礎』有斐閣
----------	------------------------

参考書	特に指定しない
-----	---------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	社会福祉に関するニュースなどに関心を持ち、シラバスに示した事前事後学習を行うこと。また、授業内でのテキストを読んだレポート発表を評価の対象とするため、授業に主体的に参加すること。
---------------------------	---

履修上の留意事項	テキストを必ず講読し、レジュメ作成など授業内で出された課題に取り組み、主体的な姿勢での受講を望みます
----------	--

オフィスアワー	水曜日 3 時限目
---------	-----------

課題に対するフィードバックの方法	課題については、メール、学内システム等により添削を行う
------------------	-----------------------------

実務経験	介護職員
------	------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第 1 回 社会福祉と行政法 社会福祉と社会福祉の行政法、および社会保障の関係について概観する。 【事前学修】テキスト1頁から10頁を熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】授業の資料を整理し、行政法と社会保障についてノートにまとめる。</p> <p>第 2 回 福祉国家の形成と変容 福祉国家とは何かについて概観し、新自由主義との関連および福祉国家から福祉社会への変容について学ぶ 【事前学修】テキスト11頁から32頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】授業資料を整理し、福祉国家と福祉社会についてノートにまとめる。</p> <p>第 3 回 社会福祉の対象者と福祉サービスの提供主体 社会福祉の対象者への福祉サービスの具体的な内容について学び、高齢福祉サービス、障害者福祉サービス、児童福祉サービス等について学ぶ 【事前学修】テキスト33頁から61頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】授業資料を整理し、福祉サービスの提供主体についてノートにまとめる。</p> <p>第 4 回 福祉サービスの提供方法と仕組み</p>
-------	---

	<p>福祉サービスの提供方法として、現物支給、手当・助成金、貸付、保険等について学び、審議会や、行政計画など社会福祉を支える仕組みを理解する。 【事前学修】 テキスト62頁から82頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、福祉サービスの提供方法についてノートにまとめる。</p>
第5回	<p>生活困窮者対策行政法、児童福祉行政法 生活困窮者対策行政法として、生活保護法、生活困窮者自立支援法、子どもの貧困対策の推進に関する法律について理解し、さらに、児童福祉行政法として、児童福祉法、児童虐待防止法、子ども・子育て支援法などについて学ぶ。 【事前学修】 テキスト83頁から99頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、児童福祉行政法についてノートにまとめる。</p>
第6回	<p>障害者福祉行政法、高齢者福祉行政法 障害者福祉行政法として、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者福祉法などを理解し、高齢者福祉行政法として、老人福祉法、介護保険法などについて学ぶ。 【事前学修】 テキスト100頁から126頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、障害者福祉行政法についてノートにまとめる。</p>
第7回	<p>ひとり親・寡婦福祉行政法、地域福祉行政法 ひとり親・寡婦福祉行政法について理解し、地域福祉行政法として、社会福祉法、民生委員法、地域医療行政法などをまなぶ 【事前学修】 テキスト127頁から134頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、地域福祉行政法についてノートにまとめる。</p>
第8回	<p>社会福祉基礎構造改革 社会福祉基礎構造改革の概要を学び、措置制度から契約制度への移行、福祉サービスにかかる費用負担について学ぶ。 【事前学修】 テキスト135頁から151頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、社会福祉基礎構造改革についてノートにまとめる。</p>
第9回	<p>社会福祉と国の責任 福祉分野の地方分権に関する論点を概観し、制度責任と実施責任について学ぶ。 【事前学修】 テキスト177頁から190頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、地方分権についてノートにまとめる。</p>
第10回	<p>自治体の法的権限 自治体の法的権限と実施事業者の責任について理解し、市町村への事務権限の委譲と自由度の拡大について考える。 【事前学修】 テキスト191頁から200頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、自治体の法的権限についてノートにまとめる。</p>
第11回	<p>住民参加 社会福祉行政における住民参加について、住民参加と地方分権の関係について理解し、権利擁護の仕組みについて考える。 【事前学修】 テキスト204頁から220頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、住民参加と地方分権の関係についてノートにまとめる。</p>
第12回	<p>日本型福祉社会 日本型福祉社会について概観し、家族福祉や企業福祉について考える。 【事前学修】 テキスト221頁から230頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、日本型福祉社会についてノートにまとめる。</p>
第13回	<p>社会保険制度 社会保険制度における公費負担について、社会保険の種類を理解し、財源構成について考える。 【事前学修】 テキスト231頁から250頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、公費負担についてノートにまとめる。</p>
第14回	<p>自治体職員、行政組織 福祉サービスの提供と自治体職員について理解し、福祉専門職ケースワーカーと一般行政職ケースワーカーについて学ぶ。 【事前学修】 テキスト251頁から266頁を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、自治体職員と行政組織についてノートにまとめる。</p>
第15回	<p>社会福祉・社会保障の動向と課題 直近の社会保障制度の動向について概観し、わが国の社会福祉行政の課題について学ぶ。 【事前学修】 配布資料を事前に熟読し、専門用語について下調べしておく。 【事後学修】 授業資料を整理し、社会福祉行政の課題についてノートにまとめる。</p>
	<p>定期試験</p>

講義科目名称： 児童文学

授業コード： 52207000

英文科目名称： Children's Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
三木 慰子			
開講曜限	授業形態		
火3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	子どものための文学を学ぶ科目です。そのため、まずはたくさんの子どものための文学に触れて、人としての感性を磨き、心を豊かにしてもらいます。そして、あなた自身の様々な本との出会いを振り返りながら、子どもの年齢に応じた文学作品を選択し、保育や教育活動に発展させる力を養いたいと思います。
学習到達目標	・子どものための文学にはどんなものがあるのかを知ることができます。・年齢、季節やテーマに応じたお話をすることができます。・子どものための文学を様々な表現方法で伝えることができます。・授業を通して、豊かな心を磨くことができます。・子どもにとっての文学の重要性を知り、将来保育者や教育者になったときに、大いに活かすことができます。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを可能な範囲で取り入れます。 【ICTを利用した双方向授業】 インターネットを利用して調べたことをプレゼンしてもらいます。 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 平常点（授業参加態度、提出物）、レポート点、発表点 【割合】 平常点（50%）、レポート点（25%）、発表点（25%）
教科書・テキスト	プリントを配布します。
参考書	『子どもに伝えたい年中行事・記念日<新訂版>』 萌文書林編集部編、萌文書林 『新版 蛙の大冒険―芭蕉から幼児教育にジャンプする』 三木慰子編、文芸社
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	たくさんの児童書に関するもの（映画、テレビなども含む）に触れてください。そして、必ず原書を読むこと。授業中のプレゼンテーションなどから得たクラスの人からの意見を参考に今後活かしてください。
履修上の留意事項	定期試験はありませんので、授業には必ず出席し、提出物を出すこと。
オフィスアワー	研究室は1号館307。 月、火、木の昼休み（12時30分～13時）
課題に対するフィードバックの方法	毎時間の提出物やレポートに関しては必ず、返却し、各自振り返りを行ってしてもらいます。個別にメールで指導を行うこともあります。
実務経験	高等学校教員（現代国語と国語表現を担当）
その他	受講者数により、シラバスの順番や内容を変更する場合があります。
授業の内容	<p>第1回 講義ガイダンスとクイズ「年中行事・記念日」 講義内容についての説明。 クイズ「年中行事・記念日」日本の文化や季節感の再確認をする。</p> <p>【事前学修】 シラバスを読む。日本語 I で学んだ（取り上げた）年中行事・記念日に関するプリントを見直してくる。 【事後学修】 年中行事・記念日のプリントを見直す。</p> <p>第2回 クイズ「年中行事・記念日」 前回の続き。クイズの解答確認。</p> <p>【事前学修】 年中行事・記念日のプリントを見直す。 【事後学修】 プリントのできなかつた部分を覚え直す。</p> <p>第3回 児童文学とは、季節の絵本紹介 児童文学に関する説明。 『はらぺこあおむし』の作者と絵本紹介。 ビデオ『はらぺこあおむし』の鑑賞をする。 ビデオと絵本の比較をする。 (1冊の絵本を通して、どんなことができるかについて考える)</p>

第4回	<p>【事前学修】季節の絵本にはどんなものがあるのか、考える。 【事後学修】再度、『はらぺこあおむし』を読んでみる。</p> <p>児童文学の表現方法 『桃太郎』のあらすじを書き、ビデオで確認する。 その後、児童文学の表現方法である素話、読み聞かせ、紙芝居、朗読劇、パネルシアター、ペープサート、エプロンシアターなどについての説明を聞き、グループごとの担当を決め、練習をする。</p>
第5回	<p>【事前学修】『桃太郎』のあらすじをまとめる。 【事後学修】児童文学の表現方法で気になるものを一つ選んで、どんなものか調べてみる。</p> <p>児童文学の表現方法 『桃太郎』の話素話、読み聞かせ、紙芝居、朗読劇、パネルシアター、エプロンシアターを使つての発表をする。</p>
第6回	<p>【事前学修】素話（『桃太郎』）の練習をする。 【事後学修】担当する箇所の練習をする。</p> <p>昔話のキャラクターの変遷 「桃太郎海の神兵」のビデオ鑑賞。 昔話の主人公である桃太郎が時代を経て、どのようなキャラクターとして使用されたのかについて考える。</p>
第7回	<p>【事前学修】桃太郎のキャラクターについて、自分の考えをまとめておく。 【事後学修】ビデオを鑑賞した際、メモした内容を見直す。</p> <p>昔話のキャラクターの変遷 前回のビデオに関する意見をまとめる。 参考文献を配布する。</p>
第8回	<p>【事前学修】ビデオに関する感想のメモをまとめておく。 【事後学修】ビデオ学習をした上で再度、『桃太郎』を読み返す。</p> <p>私と児童文学 「私の読書体験」「絵本との出会い」といった「自分新聞」案を作成する。</p>
第9回	<p>【事前学修】児童文学についての個人の読書歴をメモする。 【事後学修】自分新聞の構成を考える。</p> <p>私と児童文学 「自分新聞」案の作成。例えば、お気に入りの一作品を深く調べる。もしくは年代に合わせて読んだ本の紹介。読書歴が少ない場合、他者に紹介された本を調査してもよい。パソコン作成でも手書きでもよい。</p>
第10回	<p>【事前学修】お気に入りの本を読み直す。 【事後学修】パソコン入力ที่ไม่十分の場合は空き時間に取り組んでおく。（進めておく）</p> <p>私と児童文学 「自分新聞」案をグループで意見交換し、より完成度の高いものを作成する。</p>
第11回	<p>【事前学修】グループでの意見交換ができるように新聞を作成しておく。 【事後学修】話し合いの結果、新聞の手直しをする。</p> <p>私と児童文学 発表（他者の発表の仕方のよいところを見習い、自身の発表に活かす努力をする）</p>
第12回	<p>【事前学修】発表準備をしておく。 【事後学修】質問があれば、次回、補足ができるようにしておく。</p> <p>私と児童文学 発表（他者の発表の仕方のよいところを見習い、自身の発表に活かす努力をする）</p>
第13回	<p>【事前学修】11に同じ 【事後学修】11に同じ</p> <p>私と児童文学 発表（他者の発表の仕方のよいところを見習い、自身の発表に活かす努力をする）</p>
第14回	<p>【事前学修】11に同じ 【事後学修】11に同じ</p> <p>私と児童文学 発表後、感想をまとめ、そのあとでグループディスカッションを行う。（子どもの年齢に応じた文学作品であったかを確認する）</p>
第15回	<p>【事前学修】前期、学んだ内容（取り組んだ内容について）を見直してくる。 【事後学修】次回のまとめで活用するものを準備する。</p> <p>まとめ 児童文学の意味について考え、まとめる。</p> <p>【事前学修】児童文学の意味に関して、自分の意見をまとめる。 【事後学修】今後、児童文学での学びや気づきを活用できるように努める。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 後期・前期	3・4	2	選択
担当教員			
鈴木 順子			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
科目の概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの既習科目と保育実習Ⅰを始めとする実習経験を踏まえて、総合的に保育をとらえる意識をもって実習を行う ・子どもとの関わりにおいて、より深い子ども理解が求められるように、ある程度同一のクラスで実習を行う ・養護と教育が一体的に行われるという保育の基本理念や社会的役割を具体的実践から学ぶ ・実習生自身が自ら保育現場での実習を通して保育士の役割（保護者支援や子育て支援、地域連携などを含む）を理解する ・指導案を作成し、保育実践をする中でPDCAサイクルの重要性を理解する
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めることができる。 ・子ども理解を深めるための子どもとの関わりについて述べるができる。 ・これまでの既習科目と保育実習ⅠAを始めとする実習経験を踏まえて、保育士の役割について総合的に理解できる。 ・指導案を作成する中で、PDCAサイクルについて理解を深め省察できる。 ・実習における自己課題を明確化し、論じることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 臨地実習における実習</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 保育所又は認定こども園での実習に参加</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目・割合】 実習園による評価（90%）、実習ノートの内容、面談内容など（10%）を総合的に評価する。</p>
教科書・テキスト	<p>大阪青山大学 子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック</p> <p>大阪青山大学 子ども教育学科 保育実習ノート</p>
参考書	<p>厚生労働省 2018 保育所保育指針解説 フレーベル館</p> <p>内閣府 文部科学省 厚生労働省 2018 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習に参加するにあたって、子どもの発達や興味・関心などについて調べておくこと。 ・実習参加に向けての心構えや準備の確認を行うこと。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学ぶ姿勢をもって実習に参加すること ・参加条件を満たさない場合は、参加できない ・実習ハンドブックをよく読むこと
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします
課題に対するフィードバックの方法	保育実習Ⅱ事後指導においてフィードバックを行う
実務経験	幼稚園教諭、保育士
その他	このシラバスは下記の文献を参考に作成した。 一般社団法人全国保育士養成協議会編集 2018 保育実習指導のミニマムスタンダードVer2 「協働」する保育士養成 中央法規
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 保育所の役割や機能の具体的展開 <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となって行われる保育の具体的理解 ・保育所の社会的役割と責任を知ること 【事前学修】 保育所保育指針解説p13-29を読みその内容について理解しておく 【事後学修】 実際の保育に参加する中で保育所保育の実際を知る。 参加実習における保育の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿についての観察および理解 ・環境構成に対する理解および配慮 ・保育士の援助や配慮

<p>3.</p> <p>4.</p> <p>5.</p> <p>6.</p>	<p>【事前学修】保育所保育指針解説 p285-293を読むこと。 また、実習に参加するクラスに応じて次のページも読んでおくこと。 乳児：保育所保育指針解説 p89-120 1歳以上3歳未満児：保育所保育指針解説 p121-181 3歳児以上：保育所保育指針解説 p182-284</p> <p>【事後学修】日々の実習に参加する中で、子どもの姿や保育者の保育における援助・配慮などをふまえながら日誌の記載を行う。</p> <p>保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所している子どもの保護者及び地域の保護者に対する子育て支援 ・関係機関や地域社会との連携・協働 <p>【事前学修】保育所保育指針解説 p329-342を読むこと。 【事後学修】保育に参加する中で、保育者と保護者とのかかわりの場面に関心を向け感想や質問等を書いてみようとする。</p> <p>指導計画の作成・実践・観察・記録・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導計画に基づく実践と評価 <p>【事前学修】様々な授業で習った子どもの姿を踏まえた指導計画の書き方を見返すこと。 【事後学修】子どもの姿を踏まえた指導計画を作成し、実践・省察を行い指導案の感想にその内容を記載する。</p> <p>保育士の業務と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な保育の展開と保育士の業務 ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理 <p>【事前学修】保育所保育指針解説p344-347を読むこと。 【事後学修】日々保育の省察を行う中で、保育士の業務の多様性と職業倫理について考えること。</p> <p>自己課題の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育に参加する中で保育士として働く上での自身の課題について考える。 <p>【事前学修】日誌の書き方を再確認すること。 【事後学修】日々の日誌の記載を通して、保育実習を終えた感想を記し、自身の保育をする上での課題を考えること。</p>
---	--

講義科目名称： 地域子育て支援実習

授業コード： 52209400

英文科目名称： Practice in Child Rearing in Community

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	4	2 (通年)	選択
担当教員			
鈴木 順子			
開講曜限	授業形態		
水1	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p> <p>■4-3 専門的職業人としての誇りをもって、家庭や地域社会との連携・協働のもと、子どもの健やかな育ちに貢献することができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	地域の子育て支援に関する社会的資源を理解し、学内等の子育て支援室での実習を通して子どもと保護者への育児支援について学ぶ。
----------	--

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none">・乳幼児期の親子関係に触れる中で保育者としての子育て支援への役割と使命感を養う。・現代社会における子どもや子育てに関する現状と課題についての理解を深め、保育・教育者として実践力を身につける。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>グループワークや体験型学習を行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業内レポート、課題提出、平常点</p> <p>【割合】</p> <p>授業内レポート(50%)、課題提出(20%)、平常点(30%)</p>
---------	--

教科書・テキスト	必要に応じて、適宜、プリント等を配布する。
----------	-----------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none">・井上登生・河野洋子・相澤仁編著「おおいたの子ども家庭福祉 子育て満足度日本一をめざして(電子書籍)」明石書店 2022年・柏女霊峰編著「子ども家庭福祉における地域包括的・継続的支援の可能性」福村出版 2020年・木村純・芝野松次郎・新川泰弘編著「地域子育て支援実習・子ども家庭支援、子育て支援入門」ミネルヴァ書房 2021年
-----	---

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	活動記録を実習日誌にまとめ、地域における子育て支援の在り方について省察する 各自治体独自の子育て支援事業について理解する
---------------------------	---

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none">・通年授業・学外実習を伴うため、遅刻・欠席厳禁
----------	--

オフィスアワー	戸松玲子、鈴木順子(毎昼休み)
---------	-----------------

課題に対するフィードバックの方法	授業終了後、実習課題について振り返る
------------------	--------------------

実務経験	戸松玲子(幼稚園教諭、保育士) 鈴木順子(保育士、地域子育て支援センター職員)
------	--

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回</p> <p>オリエンテーション オリエンテーション、グループ分けを行う。我が国における子育て支援施策についての概要がまとめられるように関連するネット検索資料や本等を持参する。 【事前学修】我が国における子育て支援施策に関連する本やネットで検索し、授業内でまとめられるようにしておく。 【事後学修】子育て支援施策をまとめたことを基に、我が国における子育て支援施策上の課題を考察する。</p> <p>第2回</p> <p>地域子育て支援について 箕面市における子育て支援事業の現状について調べる。 【事前学修】箕面市の子育て支援事業についてのパンフレットやネットで検索し、授業でまとめられるようにしておく。 【事後学修】箕面市の子育て支援事業の内容について把握し、国の子育て支援施策と共に子育て支援の現状や課題を把握し、自分の意見が述べられるようにしておく。</p>
-------	---

第3回	<p>学内子育て支援室での実習①</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 個別の発達状況に応じた遊びと環境構成について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の子どもとの関わりに関する考察</p>
第4回	<p>子育て支援室での実習②</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 個別の発達状況に応じた遊びと環境構成について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の子どもとの関わりに関する考察</p>
第5回	<p>子育て支援室での実習③</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 個別の発達状況に応じた遊びと環境構成について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の子どもとの関わりに関する考察</p>
第6回	<p>子育て支援室での実習④</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 個別の発達状況に応じた遊びと環境構成について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の子どもとの関わりに関する考察</p>
第7回	<p>前期中間振り返りと環境整備</p> <p>前期中間振り返りと環境整備を行う。 【事前学修】 これまでの実習の振り返りとまとめ 【事後学修】 今後の子育て支援実習に関する課題の整理と見直し</p>
第8回	<p>子育て支援室での実習⑤</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 保護者支援について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の保護者との関わりに関する考察</p>
第9回	<p>子育て支援室での実習⑥</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 保護者支援について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の保護者との関わりに関する考察</p>
第10回	<p>子育て支援室での実習⑦</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 保護者支援について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の保護者との関わりに関する考察</p>
第11回	<p>子育て支援室での実習⑧</p> <p>保護者支援について学ぶ。 【事前学修】 保護者支援について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の保護者との関わりに関する考察</p>
第12回	<p>子育て支援室での実習⑨</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 保護者支援について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の保護者との関わりに関する考察</p>
第13回	<p>子育て支援室での実習⑩</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 子ども・保護者支援について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の子どもと保護者の関わりに関する考察</p>
第14回	<p>子育て支援室での実習⑪</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 子ども・保護者支援について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の子どもと保護者の関わりに関する考察</p>
第15回	<p>前期振り返り</p> <p>前期の振り返りをする。 【事前学修】 実際の子どもと保護者に関わった際の感想をまとめる。 【事後学修】 事前学修を踏まえた前期の振り返りと地域子育て支援における今後の課題についてまとめる。</p>
第16回	<p>後期オリエンテーション</p> <p>オリエンテーション、グループ分けを行う。 【事前学修】 前期実習の振り返りと今後の自己課題について考える。 【事後学修】 地域から求められている本学子育て支援室の役割について考える。</p>
第17回	<p>学内子育て支援室での実習⑫</p> <p>学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 個別の発達状況に応じた遊びと環境構成について考える。 【事後学修】 事前学修を踏まえた実際の子どもとの関わりに関する考察</p>
第18回	<p>大学祭に向けての準備</p> <p>手遊びや絵本等、実践に向けての準備をする。</p>

	<p>【事前学修】 様々な教材調べをしておく。 【事後学修】 補足の教材調べをする。</p>
第19回	<p>大学祭に向けての準備 手遊びや絵本等、実践に向けての準備をする。 【事前学修】 実践のシミュレーションをしておく。 【事後学修】 実践のシミュレーションをしておく。</p>
第20回	<p>大学祭子育て支援室 学内の子育て支援施設にて行う。 【事前学修】 開室準備 【事後学修】 自分自身と全体の振り返りを考える。</p>
第21回	<p>実践後の今後の課題とまとめ 実践を行った感想と今後の課題についてまとめる。 【事前学修】 自分自身と全体の振り返りを考える。 【事後学修】 他者の意見も聞いた上で自分なりに再度考えをまとめる。</p>
第22回	<p>学内子育て支援室での実習⑬ 学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 個別の発達状況に応じた遊びと環境構成について考える。 【事後学修】 実際の子どもの関わりに関する考察</p>
第23回	<p>学内子育て支援室での実習⑭ 学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 個別の発達状況に応じた遊びと環境構成について考える。 【事後学修】 実際の子どもの関わりに関する考察</p>
第24回	<p>学内子育て支援室での実習⑮ 学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 個別の発達状況に応じた遊びと環境構成について考える。 【事後学修】 実際の子どもの関わりに関する考察</p>
第25回	<p>学内子育て支援室での実習⑯ 学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 子ども・保護者支援について考える。 【事後学修】 子どもと保護者の関わりに関する考察</p>
第26回	<p>学内子育て支援室での実習⑰ 学内の子育て支援施設にて実習を行う。 【事前学修】 子ども・保護者支援について考える。 【事後学修】 子どもと保護者の関わりに関する考察</p>
第27回	<p>地域の子育て支援を調べる。 自分が居住している、又は就職する先の地域の子育て支援を調べる。 【事前学修】 自分が調べる地域の子育て支援についての資料を集める。 【事後学修】 自分が調べる地域の子育て支援についての資料を集める。</p>
第28回	<p>地域の子育て支援を調べる。 自分が居住している、又は就職する先の地域の子育て支援をまとめる。 【事前学修】 自分が調べる地域の子育て支援についての資料を集める。 【事後学修】 自分が調べる地域の子育て支援についての資料を集める。</p>
第29回	<p>地域の子育て支援の発表をする。 他の学生の地域の子育て支援について学ぶ。 【事前学修】 発表の準備をする。 【事後学修】 他の学生が発表した地域の子育て支援をまとめる。</p>
第30回	<p>まとめ 一年間のまとめを行う。 【事前学修】 一年間を振り返った上で、保育者としての子育て支援についての課題を考える。 【事後学修】 地域の子育て支援、保護者支援の現状と課題について改めて考察する。</p>

講義科目名称： 生徒・進路指導論

授業コード： 52212000

英文科目名称： Theory and method of student guidance and career guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
佐藤 雄一郎			
開講曜限	授業形態		
火4	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-1 初等教育の教科等の内容に関する専門的知識を有し、教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、場面に応じた適切な指導方法を工夫することができる</p> <p>■4-2 子どもの権利を理解し、それを尊重して、公平かつ受容的・共感的な態度で子どもと関わるることができる</p>
科目の概要・目的	学校教育における生徒指導および進路指導の位置づけ、教育活動全体を通じた指導の視点と方法について、具体的な事例を用いながら講義を行う。児童生徒が抱える生徒指導・進路指導上の課題をふまえて、校内外の連携も含めて、どのように対応していけば良いか説明を行う。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における生徒指導および進路指導の意義、また今日の児童の生徒指導・進路指導上の課題とは何かを論じることができる。 ・生徒指導・進路指導上の課題を克服するために必要な教育実践を構想できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>毎回の授業でグループワークおよびディスカッションを行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>オンラインでのアンケート実施や文書の共同作成を行う場合がある</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>毎回の課題提出、定期試験（レポート）</p> <p>【割合】</p> <p>毎回の課題提出30点、定期試験（レポート）70点</p>
教科書・テキスト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。
参考書	<p>文部科学省『生徒指導提要—令和4年12月—』東洋館出版、2023年</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版、2018年</p> <p>山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣、2014年</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学修は、毎回それぞれのテーマについて調べ、ノートにまとめてくること。事後学修については、各回で指示する。
履修上の留意事項	積極的な意見表明、疑問、質問を期待しています。
オフィスアワー	事前連絡があれば、火曜日のお昼休みに対応可能。
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出をを求める課題については、次の授業でフィードバックを行う。
実務経験	特になし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p> 授業概要を理解するとともに、本科目受講への課題意識を持つ</p> <p> 【事前学修】これまで自分が経験した生徒指導および進路指導について、印象に残っている経験をノートにまとめてくる</p> <p> 【事後学修】本科目での自分なりの目標をまとめる</p> <p>第2回 教育課程における生徒指導の位置づけ</p> <p> 教育課程における生徒指導の位置づけ、生徒指導の四視点、生徒指導の構造（二軸三類四層構造）について学ぶ</p> <p> 【事前学修】今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる</p> <p> 【事後学修】『生徒指導提要』を改めて読む</p> <p>第3回 生徒指導の今日的課題</p> <p> 生徒指導の課題今日の生徒指導上の課題、生活指導の概念について学ぶ</p> <p> 【事前学修】今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる</p> <p> 【事後学修】生徒指導と生活指導の違いについてまとめる</p> <p>第4回 子どもの権利と生徒指導の方法</p>

	<p>生徒指導の方法原理である集団指導と個別指導について、その基盤となる児童生徒理解について、児童の権利に関する条約について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 「子どもの権利」についてまとめる</p>
第5回	<p>子ども理解の視点と方法 言葉、身体、生活・環境という三つの視点と方法について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 三つの視点で何が理解できるのかについてまとめる</p>
第6回	<p>子どもの発達と特別な教育ニーズ 発達課題論、発達障害の種類と特性、特別な教育ニーズへの対応について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 「特別な教育ニーズ」についてまとめる</p>
第7回	<p>暴力行為・いじめへの対応 いじめ発生のメカニズム、いじめの予防・対応について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 いじめが起こるメカニズムについてまとめる</p>
第8回	<p>不登校児童の支援 不登校の実態、不登校支援の方法について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 不登校状態になってしまうメカニズムについてまとめる</p>
第9回	<p>集団づくりの方法 発達支持的生徒指導、「集団づくり」の方法について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 「集団づくり」についてまとめる</p>
第10回	<p>教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ 教育課程における進路指導・キャリア教育の機能、ガイダンスとしての指導、カウンセリングとしての指導について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 「キャリア教育」となる具体的な教育活動についてまとめる</p>
第11回	<p>進路指導・キャリア教育における教職員・家庭・関係機関との連携 家庭・関係機関・教職員との連携について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 それぞれの相手との連携方法をまとめる</p>
第12回	<p>職業に関する体験活動とカリキュラム・マネジメント 職業に対する体験、特別活動や総合的な学習の時間等を関連させたカリキュラム・マネジメントについて学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 職業に関する体験活動の様々な取り組みについてまとめる</p>
第13回	<p>キャリア教育の視点に立った授業改善と評価改善 キャリア教育の視点に立った授業改善、ポートフォリオの活用方法を含めた評価改善について、事例をふまえて学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 授業で読んだ実践記録を再分析する</p>
第14回	<p>子どもに応じた進路指導 子どもの個性や適性に応じた進路指導の方法について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 進路指導の概念とその実践方法についてまとめる</p>
第15回	<p>生徒指導・進路指導をとおした社会的・職業的自立 社会的・職業的自立に向けた指導方法について学ぶ 【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】 社会的・職業的自立に必要な教育内容と教育方法についてまとめる</p>
	定期試験

講義科目名称： 子ども理解の理論と方法

授業コード： 52215100

英文科目名称： Theory & Method of Child Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
戸松 玲子、高木 典子			
開講曜限	授業形態		
月2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-3 専門的職業人としての誇りをもって、家庭や地域社会との連携・協働のもと、子どもの健やかな育ちに貢献することができる</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>保育者は、乳幼児の心身の健康な成長・発達のプロセスについて理解に基づき、日々の保育実践を積み重ねていかねばならない。本講義においては、この理解を深めるために、医学・心理学・教育学における子どもの成長・発達のアセスメント方法について学ぶとともに、保育現場での具体的な観察法・観察の論点について話し合いながら、子どもへの具体的支援方法について学ぶ。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの現状を客観的に評価できるようになる 客観的に基づいた保育実践力を身につける 保育実践事例について討論できる
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜、ディスカッションを行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 第6～10回については、Microsoft-Teamsを利用する。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験(筆記)及び課題提出</p> <p>【割合】 定期試験(筆記)：70% 課題提出：30%</p> <p>※評価の配分は、授業の担当回数に合わせ、戸松2：高木1とする。</p>
教科書・テキスト	『幼児理解に基づいた評価』 文部科学省、株式会社チャイルド本社、2019、250円（＋税）
参考書	『子どもとかわる人のための心理学』 沼山博・三浦主博編著、萌文書林、2020、2000円（＋税） その他、必要に応じて、適宜指示する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>毎授業後の復習を怠らないこと。</p> <p>第6～10回については、Microsoft-Teamsで復習課題を配信する。</p>
履修上の留意事項	授業中の私語は厳に慎むこと
オフィスアワー	<p>戸松：毎昼休み</p> <p>高木：月曜昼休み</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>戸松：授業終了後の感想を元に、次回授業時にフィードバックを行う。</p> <p>高木：Teams課題については、授業内でフィードバックを行う。</p>
実務経験	<p>戸松：幼稚園教諭、保育士</p> <p>高木：特別支援学校の教育心理検査室にて発達評価および発達支援業務（臨床発達心理士）</p>
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション【戸松・高木】 子ども理解とは、評価とは 【事前学修】これまでの学びを踏まえ、評価の種類を下調べしておく 【事後学修】保育実践における評価の意味を理解する</p> <p>第2回 子ども理解と保育評価【戸松】 保育実践と評価の連続性について 【事前学修】保育実践における評価の意味を復習しておく 【事後学修】保育実践におけるPDCAサイクルについて理解する</p> <p>第3回 子ども理解と保育者の姿勢【戸松】 個と集団の関係について 【事前学修】これまでの実習経験を踏まえ、保育場面における個別活動と集団活動の具体例につ</p>

第4回	<p>いてまとめておく 【事後学修】 保育場面における個別活動と集団活動の意味を捉え直す 実践事例①【戸松】 新入園児の姿から学ぶ 【事前学修】 これまでの実習経験を踏まえ、個別活動場面での具体的援助内容についてまとめておく 【事後学修】 保育場面における個別活動への援助内容の意味を捉え直す</p>
第5回	<p>実践事例②【戸松】 子ども同士の関係から学ぶ 【事前学修】 これまでの実習経験を踏まえ、集団活動場面での具体的援助内容についてまとめておく 【事後学修】 保育場面における集団活動への援助内容の意味を捉え直す</p>
第6回	<p>心理・社会的アセスメントを通した子ども理解①【高木】 子ども理解のための客観的指標について アセスメントの背景にある発達理論の振り返り。 インフォーマルアセスメントとフォーマルアセスメントの違いを理解する。 【事前学修】 ピアジェの認知発達理論について「保育の心理学」「教育心理学」等を復習しておく。 「informal：インフォーマル」と「formal：フォーマル」の言葉の意味を調べる。 【事後学修】 実習日誌等から自分が行ってきたインフォーマルアセスメントを振り返る。</p>
第7回	<p>心理・社会的アセスメントを通した子ども理解②【高木】 代表的なフォーマルアセスメントとしての発達検査について 3つの観点（運動、社会性、認知）とDQについて理解する。 ※実習日誌（なるべく幼稚園・保育園のもの）を持参すること。 【事前学修】 乳幼児期を中心に発達過程について復習しておく。 【事後学修】 自分が注目しやすい観点、注目しにくい観点について振り返る。</p>
第8回	<p>心理・社会的アセスメントを通した子ども理解③【高木】 発達検査の結果の子ども理解への活かし方について 発達検査の結果と実際の子どもの姿との関連を理解する。 【事前学修】 前回授業で紹介した以外にどのような発達検査があるのか調べる。 【事後学修】 振り返り課題に取り組む。</p>
第9回	<p>心理・社会的アセスメントを通した子ども理解④【高木】 代表的なフォーマルアセスメントとしての知能検査について 2種類のIQの違いがわかる。 IQやDQの意味を正規分布と関連づけて理解する。 客観的指標の信頼性と妥当性について理解する。 【事前学修】 知能とは何かについて「教育心理学」等の学びを復習しておく。 【事後学修】 IQやDQの意味および正規分布との関連をまとめる。 発達検査と知能検査の違いについてまとめる。</p>
第10回	<p>発達に課題のある子どもの理解について【高木】 発達に課題のある子どもの理解について、心理・社会的アセスメントを通して検討する。 フォーマルアセスメントから得られた客観的指標の利用の実際について、事例を元に検討する。 【事前学修】 発達に課題のある子どもについて復習しておく。 発達支援を考える上で利用可能な資源（リソース）にはどのようなものがあるか、復習しておく。 【事後学修】 第6～10回の振り返り課題に取り組む。</p>
第11回	<p>発達に課題のある子どもとハイリスク家庭への理解について【戸松】 成長・発達上、課題のある子どもが陥りやすいマльтиリートメント養育について、事例を元に検討する。 【事前学修】 ハイリスク状況下にある家庭について下調べしておく 【事後学修】 子どもと保護者支援のポイントについてまとめておく</p>
第12回	<p>子ども理解に基づく保育計画①【戸松】 幼稚園教育要領“領域”から捉える子ども理解と保育実践について 【事前学修】 幼稚園教育要領総則及び領域について復習しておく 【事後学修】 各領域が目標とする子どもの育ちの姿について理解する</p>
第13回	<p>子ども理解に基づく保育計画②【戸松】 子ども理解に基づく“ねらい”と“主な活動”について 【事前学修】 これまでの実習経験を踏まえ、保育計画における“ねらい”と“主な活動”の関係について復習しておく 【事後学修】 子ども理解に基づく保育実践計画を省察できるようになる</p>
第14回	<p>実践事例に学ぶ【戸松】 テキストに記載されている実践事例を基に、子ども理解のための評価と保育計画の連続性について学ぶ 【事前学修】 予め指定されたテキストの範囲を精読する 【事後学修】 実践事例における評価のポイントについてまとめる</p>
第15回	<p>まとめ【戸松】 子ども理解の観点についてまとめる 【事前学修】 本講義全体を振り返る 【事後学修】 保育実践における子ども理解と評価の意味についての考えをまとめる</p>
定期試験	

講義科目名称： 子どもの音楽総合 I

授業コード： 52216000

英文科目名称： General Survey of Children's Music I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	選択
担当教員			
永井 正幸、安本 雅子、青谷 理子、辛島 則子			
開講曜限	授業形態		
月1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-2 保育内容に関する専門的知識を有し、教材となる素材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことや、子どもの興味関心などを踏まえて、保育の内容に即した適切な保育の計画を工夫することができる。</p> <p>■4-1 初等教育・保育・子ども福祉における職務内容と役割を理解し、子どもと関わる専門的職業人としての強い使命感を有している</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>子どもの心を豊かにするための音楽表現・技術について、応用も含めて教授する。</p> <p>子どもの歌の教材研究を行うことで、教材の目的や指導方法についての理解を深める他、器楽合奏やリズム表現・音遊びなどの音楽表現方法を自ら工夫し、実践できることを目的とした授業を展開する。ピアノ演習では、個々の進度に応じたグレード別課題曲（ソナチネ・ソナタアルバムなど）を学ぶ授業を行い、発展的な演奏表現の修得を目的とする。</p>
----------	---

学習到達目標	<p>◇ 保育及び教育現場で歌われる楽曲について、楽曲成立の背景や歌詞・曲の構造を研究することにより、実技における表現力を高めることができる。</p> <p>◇ 各種楽器を使用した器楽アンサンブルの楽しさを、子ども達に工夫しながら伝えることができるようになる。</p> <p>◇ リズムによる音楽表現・身体表現や即興的な音遊び、伴奏表現など音楽表現方法のバリエーションを増やすことができる。</p> <p>◇ ピアノ演習では、ソナチネ・ソナタなどを演奏できるようになる。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>◇ グループワーク：第11/13/15回の授業では、グループに分かれて器楽合奏に取り組む。</p> <p>◇ 第15回の授業では教材研究曲の試演を行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>◇ 特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>◇ 15回の授業を教材研究や器楽合奏などを行う授業回とピアノ表現を学ぶ授業回に分けて行う。ピアノ演習では4～5名の学生を1グループとして履修者全体を分け、各グループに教員1人を配置して授業を行う。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>◇ 定期試験（実技）</p> <p>◇ レポート</p> <p>◇ 平常点</p> <p>【割合】</p> <p>◇ 定期試験（実技）（弾き歌い40% ピアノ40%）</p> <p>◇ レポート10%</p> <p>◇ 平常点10%</p>
---------	---

教科書・テキスト	<p>◇ 「最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導」井口太 編著 朝日出版社</p> <p>◇ 「小学校教員養成課程用 改訂版 最新初等科音楽教育法 2017年告示『小学校学習指導要領』準拠」初等科音楽教育研究会 編 音楽之友社</p> <p>◇ 「ソナチネアルバム1 標準版」全音</p> <p>◇ 「ソナタアルバム1 標準版」全音</p>
----------	---

参考書	◇ 特に指定しない。
-----	------------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>◇ 保育・教育現場で歌われる楽曲について、文献資料を調べること。</p> <p>◇ 楽典の復習を怠らないこと。</p>
---------------------------	--

履修上の留意事項	<p>◇ 器楽 I・II を履修済みであること。</p> <p>◇ 五線紙を準備しておく。</p> <p>◇ 毎回の学修内容をレッスンカルテに記入すること（授業内、または授業終了後の早い段階で）。</p>
----------	--

オフィスアワー	◇ 月曜日3限
---------	---------

課題に対するフィードバックの方法	◇ 毎回の授業内容を記入した「レッスンカルテ」を全15回の授業終了後に提出する。提出された「レッスンカルテ」は、教員確認後、返却する。
------------------	---

実務経験	◇ 特になし
------	--------

その他	◇ 特になし
-----	--------

--	--

授業の内容	<p>第1回 本科目の説明、楽典（音程） 授業の進め方について、学習目標の説明、楽典（音程について復習を含めて学ぶ） 保育・教職現場で歌われる楽曲の教材研究曲については「最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導」及び「小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示『小学校学習指導要領』準拠」に収められている楽曲の中から、各自選択する。</p> <p>ピアノ週では、以下の本学ピアノグレード課題曲を進度に合わせて学ぶ ピアノグレード課題曲の範囲 グレード1～4：バイエル3番～105番まで複数曲 グレード5～7：ブルクミュラー、ソナチネアルバムⅠ巻・Ⅱ巻から複数曲 グレード8～9：ソナタアルバムⅠ巻・Ⅱ巻から 複数曲 グレード10：自由曲 【事前学修】楽典を復習しておく。「教材研究とは何か」について下調べをしておく。 【事後学修】教材研究の方法について理解を深める。</p> <p>第2回 ピアノ課題曲（譜読み） グレード課題曲から、進度に合わせて選択された楽曲の譜読みを行う。</p> <p>【事前学修】各自が到達しているグレード課題曲の譜読みを行う。 【事後学修】正確な読譜と正しい指使い・リズムなどを意識しながら、ゆっくりとした速度で練習する。</p> <p>第3回 楽典（音階・和音）、子どもの歌（教材研究曲の選択） 保育・教職現場で歌われる楽曲を1曲選択し、教材研究に取り掛かる。 聴音を行う他、コードネームや楽典（音階・和音）を学ぶ。 【事前学修】教材研究曲となる弾き歌い楽曲を各自1曲選択しておく。 【事後学修】選択した弾き歌い教材研究曲の成立背景などを調べる他、本授業回で取り組んだ楽典の学修内容を振り返る。</p> <p>第4回 ピアノ課題曲（効果的な練習方法の研究） グレード課題曲より選択された楽曲の練習を進める。 【事前学修】各自の基礎技能を確認の上、応用的な技能に取り組むにあたっての課題点を整理しておく。 【事後学修】楽曲の中で技術的に難しい箇所を改善するために必要な練習方法について理解を深め、習慣づける。</p> <p>第5回 楽典（調性・コード）、子どもの歌（教材研究曲の楽曲分析・文献研究）、イメージサウンド 教材研究曲として選択された楽曲について、楽曲内容の分析に取り組む。 楽典では、調判定について学ぶ他、コードネームを練習する。また、音楽表現方法の一つであるイメージサウンドについて学ぶ。 【事前学修】教材研究曲の成立背景を調べる。 【事後学修】教材研究曲の楽曲分析を通して、子どもの心を豊かにする表現とは何かについて考察を進める。</p> <p>第6回 ピアノ課題曲（試験曲の選択・譜読み） グレード課題曲より実技試験曲を選択し、譜読みを進める。 【事前学修】グレード課題曲より実技試験曲の候補を複数選択し、譜読みしておく。 【事後学修】実技試験曲として選定された楽曲について、指番号やリズムに気をつけながら、ゆっくりとした速度で両手練習を行う。</p> <p>第7回 子どもの歌（教材研究曲の練習）、子どもの歌の伴奏表現について コードネーム演習を行うとともに、子どもの歌の伴奏表現について学ぶ。 教材研究曲の練習を進める。 【事前学修】教材研究曲の曲想表現について考察を進めておく。 【事後学修】教材研究曲の曲想を理解した表現となるよう練習を進める他、本授業回で取り組んだ多様な伴奏表現について復習する。</p> <p>第8回 ピアノ課題曲（試験曲の演奏技術について） 試験曲について演奏上の技術的課題を見出し、練習を進める。 【事前学修】グレード課題曲から選択した実技試験曲の譜読みを終えておく。 【事後学修】ゆっくりとした速度で両手練習を行う中で、技術的に難しい箇所の練習については、その音型やリズムの種類に合わせて、練習方法を変えながら取り組む。</p> <p>第9回 合奏に向けて、子どもの歌（教材研究曲のまとめ、レポート提出） 合奏に向けて簡易楽器の使い方を確認する。教材研究曲のレポートを提出する。 【事前学修】弾き歌い教材研究曲のレポートの作成を終えておく。 【事後学修】簡易楽器を使用したリズム表現学修の内容を振り返る他、各種楽器の特長と合奏における役割について考察を進める。また、教材研究曲は定期試験曲でもあるため、練習を進めておく。</p> <p>第10回 ピアノ課題曲（試験曲の曲想表現） 試験曲について演奏表現上の課題を見出し、練習を進める他、発展的な演奏技術について学ぶ。 【事前学修】実技試験曲の練習において、見出された課題点について整理しておく。 【事後学修】ゆっくりとした速度で両手練習を行う中で、音の強弱やフレーズのまとまりを意識し、楽曲のイメージが表現できるよう練習を進める。また、取り組む曲によっては、演奏速度を徐々に上げていく。</p> <p>第11回 器楽合奏①（山の音楽家・ぞうさん）、ボディパーカッションについて 器楽合奏曲として「山の音楽家」「ぞうさん」に取り組む。グループに分かれて演習を行う。 また、手拍子や足踏み、言葉遊びも含めたボディパーカッションについて、アレンジも含めて学ぶ。 【事前学修】「山の音楽家」と「ぞうさん」の楽曲構造を調べる。 【事後学修】本授業で取り組んだ合奏曲の速度や強弱変化、楽器の組み合わせなどについて振り返りを行い、子どもが楽しむことのできる器楽アンサンブルについて応用も含めて考察する。</p> <p>第12回 ピアノ課題曲（試験曲の通し練習・暗譜） 試験曲を暗譜で演奏できるように準備する。 【事前学修】実技試験曲の曲想に合った速度で弾くことができるように練習を進めておく。</p>
-------	--

	<p>第13回</p> <p>【事後学修】試験曲の暗譜練習を進める。 器楽合奏②(アイアイ・オバケなんてないさ) 器楽合奏曲として「アイアイ」「オバケなんてないさ」に取り組む。グループに分かれて演習を行う他、2拍子・3拍子・4拍子の楽曲の指揮について学ぶ。 【事前学修】「アイアイ」と「オバケなんてないさ」の楽曲構造を調べる。 【事後学修】本授業で取り組んだ合奏曲の速度や強弱変化、楽器の組み合わせなどについて振り返りを行い、子どもが楽しむことのできる器楽アンサンブルについて応用も含めて考察する。</p> <p>第14回</p> <p>ピアノ課題曲（試験曲の仕上げ） 試験曲について、曲想表現や演奏技術の最終確認を行い、全体の構成をまとめる。 【事前学修】実技試験曲に含まれている種々の技術・表現について、その到達度を自らチェックしておく。 【事後学修】実技試験まで、ゆっくりとした速度による練習もとり入れながら、試験曲の表現と技術の安定を図る。</p> <p>第15回</p> <p>器楽合奏③(犬のおまわりさん)、子どもの歌（教材研究曲の試演） 器楽合奏曲として「犬のおまわりさん」に取り組む。グループに分かれて演習を行う。 定期試験に向けて、教材研究曲の試演を実施、最終確認を行う。 【事前学修】「犬のおまわりさん」の楽曲構造を調べる。実技試験に向けて教材研究曲の練習を積み重ねておく。 【事後学修】本授業で取り組んだ合奏曲の速度や強弱変化、楽器の組み合わせなどについて振り返りを行い、子どもが楽しむことのできる器楽アンサンブルについて応用も含めて考察する。また教材研究曲試演の振り返りを行い、表現や技術の到達度をチェックする。</p> <p>定期試験</p>
--	--

講義科目名称：健康子ども学Ⅱ

授業コード：52216700

英文科目名称：Principles of Child Health II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
戸松 玲子			
開講曜限	授業形態		
木3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■子ども教育学科■</p> <p>■2-4 子ども・家庭をめぐる今日的・社会的諸課題について多面的に捉えることができる</p> <p>■4-3 専門的職業人としての誇りをもって、家庭や地域社会との連携・協働のもと、子どもの健やかな育ちに貢献することができる</p>
---------	---

科目の概要・目的	健康子ども学Ⅰでの学びを基に、子どもの心身の健康発達・保障について考える。特に、近年の子ども研究における知見から、多面的に子ども理解を深めていく。
学習到達目標	現代社会における、子どもの心理・社会的問題の背景にある様々な現象を小児科学の観点から理解し、論じることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎授業ごとに、適宜ディスカッションを行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（レポート）、課題提出</p> <p>【割合】 定期試験（レポート）：70% 課題：30%</p>
教科書・テキスト	適宜プリント配布
参考書	必要に応じて紹介する
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業中に指示された課題の整理及び復習を行い、次回の授業に備えること
履修上の留意事項	授業中の私語は厳に慎むこと
オフィスアワー	毎昼休み
課題に対するフィードバックの方法	授業終了後の感想を元に、次回授業時にフィードバックを行う
実務経験	幼稚園教諭、保育士、児童養護施設心理業務
その他	特になし

授業の内容	<p>第1回 我が国の子ども社会の現状① 子どもを巡る社会的諸課題の歴史的変遷 【事前学修】これまでの学びを踏まえ、子どもを巡る社会的諸課題について下調べする 【事後学修】子どもを巡る社会的諸課題の背景にあるものについて考察する</p> <p>第2回 我が国の子ども社会の現状② 現代社会における子どもを巡る社会的諸課題について 【事前学修】子どもを巡る社会的諸課題の背景にあるものについてまとめる 【事後学修】子どもを巡る社会的諸課題の解決に向けて自身の考えをまとめる</p> <p>第3回 小児期の逆境体験について① 小児期の逆境体験とは 【事前学修】逆境体験の意味を下調べする 【事後学修】子どもにとっての逆境体験とはどのようなものか自身の考えをまとめておく</p> <p>第4回 小児期の逆境体験について② 小児期の逆境体験と成人期の関係について 【事前学修】これまでの心理学での学びを踏まえ、ピアジェ、エリクソン、マラー、フロイトの発達段階について復習しておく 【事後学修】小児期の逆境体験がその後の人生にどのように影響するのか考えをまとめておく</p> <p>第5回 子どものストレスと発育</p>
-------	---

	<p>子ども期のストレスが及ぼす成人後の社会的不適応問題とその臨床像について</p> <p>【事前学修】 子どもを巡る社会的諸課題と子ども期のストレスの関係について自分なりの意見をまとめておく</p> <p>【事後学修】 子ども期のストレスの要因について小レポートにまとめる</p>
第6回	<p>子どものストレス反応Ⅰ</p> <p>子どものストレス反応としての心身症について</p>
第7回	<p>【事前学修】 子ども期の心身症、不定愁訴について下調べしておく</p> <p>【事後学修】 本時での学びを踏まえ、関係性の中で生じるストレスとその支援について考察する</p> <p>子どものストレス反応Ⅱ</p> <p>危機的状況下における急性ストレス障害と退行現象について</p>
第8回	<p>【事前学修】 子ども期の育ちにおける危機的状況について下調べしておく</p> <p>【事後学修】 危機的状況下における子どもへの関りについて自分なりの考えをまとめる</p> <p>子ども期のPTSD（心的外傷後ストレス障害）症状について</p>
第9回	<p>【事前学修】 PTSD（心的外傷後ストレス障害）について下調べしておく</p> <p>【事後学修】 単回性のトラウマと複雑性トラウマの違いについてまとめておく</p> <p>子ども期の複雑性トラウマの背景にあるもの</p>
第10回	<p>【事前学修】 単回性のトラウマと複雑性トラウマの違いについて下調べしておく</p> <p>【事後学修】 複雑性トラウマに曝された子どもへの関りについて考える</p> <p>アタッチメント研究の歴史</p>
第11回	<p>【事前学修】 これまでの学びを踏まえ、アタッチメントとは何かについて復習しておく</p> <p>【事後学修】 アタッチメントの概念を整理する</p> <p>アタッチメント障がいについて</p>
第12回	<p>【事前学修】 アタッチメントの概念を整理しておく</p> <p>【事後学修】 アタッチメント障がいをもたらす子どもの危機的状況についてまとめる</p> <p>アタッチメント障がいの子ども理解について</p>
第13回	<p>【事前学修】 アタッチメント障がいをもたらす子どもの危機的状況についてまとめる</p> <p>【事後学修】 アタッチメント障がいの子ども理解と援助について考え、まとめる</p> <p>子ども虐待発生のメカニズムⅠ</p>
第14回	<p>【事前学修】 これまでの学びを踏まえ、児童虐待防止法について下調べしておく</p> <p>【事後学修】 児童虐待発生のメカニズムの背景にあるアタッチメント障がいについて理解する</p> <p>子ども虐待発生のメカニズムⅡ</p>
第15回	<p>【事前学修】 児童虐待とアタッチメント障がいの関係についてまとめておく</p> <p>【事後学修】 児童虐待の背景にある社会的要因について理解する</p> <p>まとめ</p> <p>総括</p> <p>【事前学修】 本講義で取り上げた内容をまとめておく</p> <p>【事後学修】 これからの子どもの育ちにおける“健やかさ”について小レポートにまとめる</p>